

目的 医薬情報担当者 (Medical Representative) は、製薬会社の営業として、薬の「適性な使用と普及を目的として、会社を代表し、医療担当者を訪問し面接のうえ、医薬品の品質、有効性、安全性などに関する情報の提供・収集・伝達を日常業務として活動」を行っている。<sup>1)</sup> B製薬会社では1991年から積極的に女性MRを採用し1998年7月現在女性MRは社内の全MR数の21%である。本研究では、B製薬会社の女性MR職を対象に1998年と1999年の2年間、それぞれ4月から12月の期間に服装についての調査を行い、MR職の服装の実態と現状の問題点を考察し報告する。

方法 女性MRの服装の現状と意識について明らかにするために無記名式の質問用紙を作成し、B製薬会社の全国各支社で調査を行った。対象者はMR職2年目である。この調査により、I, 服装の現状について、II, 現状の服装に対する認識について、III, 制服について、IV, ブランド嗜好について、V, 被服費について、分析を行った。

結果 女性MRは、服装も仕事にとって重要な要素であると考えていることがわかった。営業の相手が医師であり、営業の場が病院・医院であることを、念頭においた服装の選択を行っているが、それはそこで経験した様々なことが反映され選択基準となっている。又、この調査でMR職の女性達が、一番服装のなかで問題視しているのは、「靴」であることがわかった。

<sup>1)</sup> 日本製薬工業協会、教育研修要綱 1991年9月